

永代経法要次第

二〇二〇年五月十日（日） 午後一時より

総礼

伽陀 先請弥陀入道場 【善導大師】

表白

仏説阿弥陀経

同朋奉讃式

正信偈草四句目下 (P3～32) 【親鸞聖人】

念仏 (P97)

和讃 弥陀成仏のこのかたは (P98～100)

回向 (P101)

総礼

御文【蓮如聖人】 第四帖第九通

当時このごろ、ことのほかに疫癘とてひと死去す。これさらに疫癘によりてはじめて死するにはあらず。生まれはじめしよりしてさだまれる定業なり。さのみふかくおどろくまじきことなり。しかれども、いまの時分にあたりて死去するときは、さもありぬべきようにみなひとおもえり。これまことに道理ぞかし。このゆえに、阿弥陀如来のおおせられるようは、「末代の凡夫、罪業のわれらたらんもの、つみはいかほどふかくとも、われを一心にたのまん衆生をば、かならずすくうべし」とおおせられたり。かかる時はいよいよ阿弥陀仏をふかくたのみまいらせて、極樂に往生すべしとおもいとりて、一向一心に弥陀をとうときことと、うたがうところつゆちりほどもつまじきことなり。かくのごとくこころえのうえには、ねてもさめても、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏ともうすは、かようにやすくたすけまします、御ありがたさ、御うれしさを、もうす御礼のこころなり。これをすなわち仏恩報謝の念仏ともうすなり。あなかしこ、あなかしこ。

延徳四年六月 日